



時代を拓き 世界に貢献する人を目指して

Global View

2022 年 7 月 21 日 Newsletter 第 72 号 仙台白百合学園中学・高等学校 国際教育部

「希望よ 動き出せ！」

国際教育部部長 柴田 瑞枝（英語科）

7 月 10 日、77 回目の仙台空襲の日を迎えた。オーストラリア大使館の留学フェアに参加したことがきっかけとなり、本校が“War and Peace in the Pacific 75 Education Program”に日本から初めて参加することになったのは 6 年前のことである。オーストラリア国立海洋博物館が主催し、日米豪の高校生達が平和について考えるこの第一回目のプロジェクトで本校が選んだテーマが「仙台空襲」だった。3ヶ国で探究を進めていく中、大叔母が 10 代で空襲を経験していることから当時のことについてのインタビューが始まることになった。蔵に味噌を塗って火災から守ろうとしたこと、B29 の爆撃後仙台駅から八幡町までが見渡せた状態だったこと、疎開の話、米国から届いた LaRa 物資のことなど、その機会を逸していたら一生聞くことがなかったかもしれない当時の仙台の様子がよみがえることとなった。そして新型コロナウィルスが本格化する直前の冬、オーストラリアとアメリカの高校生達が本校を訪問してくれることになった。90 歳を超えた大叔母と一緒に大会議室に入っていくと、高校生全員が立ち上がって大きな拍手で迎え入れてくれた。言葉の違いすら気にならなくなるほど有意義な時間を過ごせた。相手の痛みを自分のことのように受け止め、想像力を駆使して柔らかい心で受け止めようとする高校生達のそのすがすがしい姿勢に私は強く心を打たれた。茶道体験が行われた和室の空間においても、なんとも言えない穏やかな「平和」が皆の中に満ちていることを感じた。生まれた国や話す言葉が違って、相手を思いやり互いに接し合うことがどれだけ国際的な関わりの中で大切なことであるかを実感した瞬間であった。私はいまでもその時の静かな心の充足感を忘れることができない。

新型コロナウィルスの感染拡大により思いがけずその影響を受けることになった現実。そしてその収束も見えないうちに勃発したロシアによるウクライナ侵攻。世界中でさまざまな分断が起きていることを見聞きする時、昔読んだギリシャ神話の本を思い出す。開けてはいけぬ箱を開けて、慌てて蓋をしめたあとに残っていたもの。挿絵にあった言葉はただ一つ、“HOPE”(希望)である。本校の生徒達によるウクライナへの募金活動やチャリティーコンサートなど、自ら考えて行動に移す自主的な活動には頼もしさを感じている。私達は今こそ世界の人々と真の友人になることを目指して希望を失ってはいけぬのだと思う。某 CM にもあるように、祈りを込めてあらためて願う。「希望よ、動き出せ！」



ロシアによるウクライナ侵攻が発生し、本校では4月にウクライナ人道危機支援募金活動が実施されました。また、6月26日には、本校ギター部による聖歌演奏のミニチャリティーコンサートが開催されました。こちらは、生徒指導部の渡辺顕一郎先生からの報告です。

ロシアのウクライナに対する軍事的侵攻から約4か月経過しました。連日、メディアでは現地の武力衝突の様子や無慈悲な攻撃により家を破壊され、家族や大切な人を失い、悲嘆に溺れている人、命からがら隣国に逃れ、一日一日をやっとの思いで生活している人たちの姿が伝えられています。

本校では、侵攻当初より現地の凄惨な様子に心を痛めた生徒会役員が、中高生としてできる支援を考え、まず、ポーランドで避難民の救済活動に携わっているクラフのサンスター日本語学校への支援金の呼びかけを行い、その中で皆様から多くのお力添えをいただくことができました。その後、高校Ⅲ年生の中から「避難民の方々のために支援を継続的に行っていきたい」という熱い訴えがあり、6月26日(日)には、カトリック元寺小路教会でミニチャリティーコンサートを実施し、ギター部の皆さんが心のこもった素敵な演奏をしてくれました。

約2000年前にイエス・キリストは人々の心を揺さぶるメッセージを数多く残していますが、イエスが人々に求めたことは、他者のために「行動する力」です。今回のウクライナ支援のために生徒の皆さんが動いてくれたことは、私たちにとって希望の光です。他者のために行動する力を今後も様々な場面で発揮してもらえることを期待しています。

現在、ウクライナでは争いが長引き、泥沼化の様相を呈しています。この出来事を他人事としてとらえるのではなく、これからも関心を持ち続け支援していけたらと考えます、そして平和な社会を訪れるにともに祈り続けていきましょう。



第42回 高校生英語弁論大会

2022年6月10日に、第42回高校生英語弁論大会宮城県代表選考会が開催されました。大会では、本校から参加したⅢ年の安原雅羽さんが、演題「Resist Tendencies Toward Prejudicial Thinking」にて、奨励賞を受賞しました。こちらでは、安原さんから届いた感想を紹介します。

高校Ⅲ年4組 安原 雅羽 さん

私は6月に行われた第42回高校生英語弁論大会に出場しました。残念ながらここ数年は新型コロナウイルス感染症対策として、会場ではなく、ビデオでの参加でした。私は、実際に目の当たりにした海外の方への差別をテーマに発表しました。現在、世界中で黒人差別やアジア人差別などが問題視されていますが、私たち日本人は「差別」を他人事として捉えているのではないかと考えました。今回この弁論大会に参加をすると決めたのは、参加申し込みギリギリのことで、時間と闘いながら原稿を仕上げました。日々の課題やテストと両立しながら原稿を作り、暗記をすることは本当に大変でしたが、スティーブン先生が丁寧に指導してくださったおかげで、最後まで頑張ることが出来ました。まさか私が賞を頂けるとは思ってもみなかったもので、これまで努力したことが認められたように感じられ、本当に嬉しかったです。今回の大会に携わってくれたスティーブン先生を含め、沢山の先生方や友達に感謝の気持ちでいっぱいです。今回学んだことや経験を生かして、日本だけでなく、国際社会で活躍できる人になります。

ポーランドフレンドシッププログラム

2021 年度より、本校とポーランドのサンスター日本語学校との交流の一環として、ポーランドフレンドシッププログラムが催されています。昨年度は 9 月・10 月・12 月・1 月に各 1 回開催され、オンラインによりサンスター日本語学校の生徒さんと本校生の間で、自己紹介などの会話や、日本の紹介の発表などが行われました。

現在は、ロシアのウクライナ侵攻の影響で、ポーランドでは難民の受け入れなどが行われています。サンスター日本語学校の兵頭先生からのメールをご紹介します。

ポーランド サンスター日本語学校 兵頭 先生

日本での報道でよくご存じの通り、ウクライナ戦争が勃発して以来、300万人近い難民の方々がウクライナからこのポーランドに押し寄せてきました。人口80万のこのクラクフにも25万の難民がたどり着きました。つまり、人口が100万に増え、その四分の一が言葉も分からない外国からの難民になっているということです。先生も仙台の市内の25%が外国人で占められた、と想像してみてください。それも、一見地元の人と見た目もあまり変わらないのに、そのほとんどがコミュニケーションの問題で職も、収入もないという有様。如何に大変な状態か少しはお分かりいただけると思います。そこで私は、月曜から土曜まで主宰する日本語学校の経営をして、日曜日は生徒たちと共に一日中炊き出しの奉仕に行く、という毎日を過ごしています。事実、今まで5週間で休みは半日だけでした。

さて、先生の学校でも募金活動が始まったとか。実は東日本大震災の時同様、救援活動も勃発直後は殺到してきたのですが、時が経つにつれて風化し、支援の手も引き潮のように去っていつているのです。この戦争も2か月近いので、ボランティア要員も物資も激減しています。でも、この戦争は大震災と違い、被害は現在進行形で悪化する一方で人が次々と殺されていつています。あまりの死者数で一人一人の命の尊さが全く感じられなくなってしまいました。東日本大震災の際もそうでしたが、忘れられかけたこのタイミングでの支援はまさに死活問題そのものでございます。どうぞよろしくお願い致します。



ポーランドフレンドシッププログラムは、今年度は9月17日（土）・10月29日（土）・11月26日（土）・12月3日（土）・2023年1月21日（土）に開催の予定です。いずれも本校において、ポーランドとの時差により15:00～16:30の実施を予定しています。フレンドシッププログラムメンバーの募集は、後日、詳細と合わせて告知させていただきます。

昨年度の活動の様子です。ポーランドからお手紙が届きました！



第2回高校留学フェア

6月27日（月）の放課後に、本校の多目的室にて、中学生・高校生を対象にした第2回高校留学フェアが行われました。当日は、各留学団体（株式会社アイエスエイ（ISA）、株式会社インターサポート、OKC 株式会社、NPO 法人留学支援協会、公益社団法人日本国際生活体験協会（EIL））の担当者様から最新の留学情報の紹介や留学の意義についての話があり、留学に興味がある12組の生徒と保護者のみなさまが熱心に聞き入っていました。また、本校の「仙台白百合学園留学エントリーシステム」の説明も併せて行われました。

新型コロナウイルス感染症の広まりにより延期や中止が余儀なくされていた海外への留学・研修が、徐々に再開されつつあります。本校でも、留学講演会「はじめての ELTiS」が7月14日（木）に開催されました。ELTiS はアメリカをはじめとした海外の高校へ留学する学生の英語力を測るための試験で、参加した生徒のみなさんは講演会の後、全員試験に挑戦しました。今後も、留学に関連する講演会や最新の情報を発信しますので、みなさんも情報をキャッチして活用してください。



仙台白百合学園留学エントリーシステムについて

「仙台白百合学園エントリーシステム」に登録すると、右のような情報を受け取ることができます。

各クラスに申し込み用紙が掲示されておりますので、留学に興味のある方は是非ご登録ください。



「エントリーシステム」

によるサポート

- ・ 留学に関する講演会のご案内
- ・ 留学に向けた学習会のご案内
- ・ 提出書類の声がけなど
- ・ 留学中の報告レポートの紹介など
- ・ 進路講演会のご案内
- ・ 留学アドバイス会のご案内